



研修農場新聞

2面拡大号

(公財) 農林水産振興財団
八王子研修農場
(発行責任者)
農場長 小寺孝治
(無料)

今夏は40℃を超える日もあり記録的猛暑が続いた。人や農作物にも厳しい環境であったが、みんな頭と体をフルに使いながら新規就農に向けて日々研鑽に励んでいる。

農作物も暑さは自分と同じと考えて

令和5・6年も記録的猛暑であったが、今年はさらに観測史上最も暑い夏を経験してきた。

農作物は、何よりも天候の影響を受けるため、できるだけ作物に適した環境を整えてあげることが重要だ。

しかし、今夏のような猛暑日が続く、対処のしようもないレベルともいえる。仮に対処するにも、その作業を行うことで作業者が熱中症で倒れるほどの暑さだ。とはいえ、何もせず諦めることもできないのが農家の性かもしれない。

では、どう対処していけば良いのか。消費者に少しでも良質な農産物を届けたいという思いで作るのであれば、天候のリスクを想定したうえで栽培しなくてはならない。

夏季の天候リスクは、高温・強光・干ばつ・大雨な

どである。このほか、高温干ばつで発生しやすい病害虫や生理障害等もある。この間に研修農場でも試行錯誤してきたことを忘れないでもらいたい。

研修生の一言

さて、今夏の暑さの中、自分達で実際に野菜を育ててみて、いろいろと感じたことを一言ずつ語ってもらったので記憶に残したい。

第5期生の感想など

太田さん…6月末播きエダマメの豆が実らずに収穫で

きなかった。美味しさを重視で選定したが痛い目に遭ったので、来年は耐暑性に強い品種、マルチなしで播く防虫ネットのトンネルを大きくいもので常時被覆するなどの工夫をしていきたい。

高橋さん…異常な雨不足で、トウモロコシの発芽不良やシヨウガも生育不良となった。猛暑以外でも雨不足対策の重要性を痛感した。

田中さん…厳しい暑さの中で野菜を守る難しさを体感。水やりと遮光の工夫が今後の栽培に不可欠だと感じた。

丹治さん…雨不足で肥料が効かず、思うように育たないもどかしさを感じた。特に里芋は葉が焼け落ち地表部も枯れて無残な姿となった。記録的な暑さ、水不足等で作物は上手く育たないが、雑草は生えてくる。

第6期生の感想など

石谷さん…愛情込めて育てた野菜がこの暑い夏を良く耐え抜いてくれたと感謝している。特にキュウリは凄まじく、どんどん成長し収穫作業に追われた。少雨だが、害虫の発生は多く防除を行うタイミング、野菜の変化、葉の色の変化、病気の発生を実際この目や手で実感することができた。

大柳さん…異常な暑さを体感した夏だが、同期達と支え合いながらどうにか乗り越えられた。野菜達の頑張りの間近で見守れたことは、就農への励みになった。

澤田さん…厳しい暑さの中での作業はとても大変で今までに無いくらい量の汗をかいた。野菜にとっても大変な環境の様で、水が無いと葉が萎れ、水をあげると元気になったりと、人も野菜も環境によって大きく変わるものだと感じた。

立山さん…建設業では35℃以上の日は千円など暑さ手当を出す事例もあり、労働環境も変わりつつある。今後、農業界も様々な対応が必要になるかもしれない。

安留さん…記録的な暑さの中でも育つ野菜に自然の力を感じた。就農に向け、暑さへの準備や対策を意識して研修に励みたい。

研修情報

今夏も非常に厳しい暑さの中での研修であったが、無事に峠を越すことができた。この間には、卒業生の圃場見学会や管外視察、栽培管理に出荷や直売会など様々な研修を実施してきた。2年間で農家として独り立ちするには、様々な知識と経験が必要だ。日々の観

察と迅速な対応が何よりも大切になる。今後も、とにかく健康第一に、大いに実践経験を重ねてもらいたい。

各種SNS情報
研修農場では、研修状況等をエックスやフェイスブック、インスタグラム、YouTubeで配信しています。ぜひ「東京農業アカデミー八王子研修農場」と検索してみてください！フォローもよろしくお願いします！なお、直売情報をいち早くお知らせするためLINE Eでの配信も行っています。友だち登録はトーク検索で「東京農業アカデミー八王子研修農場」を選択又は左下QRコードより可能。

これまでの天候

地球温暖化の進行とともに、太平洋高気圧とチベットの高気圧が重なり合う「ダブル高気圧」が形成され、観測史上、異例の猛暑日が続いた。9月も勢力が維持され残暑も厳しかった。今後もその影響は続きそうだ。

7～9月の主な出来事

(7月)

- ・2日 卒業生農地見学会、7日 小平市の農家挨拶
- ・8日 農機・資材展、9日 研修生取材、5、17日 直売
- ・24日 職場体験、26日 ラム・マルシェ、30～31日 管外視察研修
- ・フードバンク提供 2、7、9、11、14、18、23、25、28日

(8月)

- ・1日 本庁予算打ち合わせ、7日 直売
- ・9～17日 研修生夏休み、21日 就農支援企画会議
- ・21日 就農準備資金ヒア、27日 あきる野市農地調整
- ・フードバンク提供 1、4、6、8、15、18、22、25、27日

(9月)

- ・1日 研修生募集ハス、3日 直売、4日 JAみらい研修会
- ・9日 新規就農支援会議、8日 派遣農家挨拶(三鷹他)
- ・13、26日 現地説明会、24日 八王子市農地調整
- ・フードバンク提供 1、5、8、10、12、19、22、24、26日



研修農場 スナップ

2025年 7~9月



この3月に卒業した第4期生が営農している圃場の見学会を7月に実施した。これまでの状況や今後について説明を受け、研修生たちは明日は我が身とばかり、活発な情報交換が行われた。

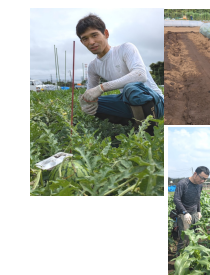
7月に入ると、肥培管理や畑づくりで機械をどんどん活用



入講から約4ヶ月目の研修生(1年生) 暑さが厳しい日でしたが、アカデミーのホームページに研修生を紹介するため、畑で写真を撮らせてもらいました。受講までの経緯や農業への思いなど、研修生ごとに紹介していますので、是非HPをご覧ください！



夏野菜の収穫がはじまると、順次、収穫や荷造りを行い、直売や出荷等を行っています。直売所では研修生たちが直接販売研修。販売前にはおすすめ品目の紹介なども行ってます(左)。



7~8月には様々な播きものや抑制栽培等がはじまる。クリーンシーダーも土壌条件によって鎮圧度や覆土が均一にされているが重要。抑制マトは養液栽培と土耕栽培を行っている。

2年生たちは、自分の圃場にて将来作ろうとしている作物について、創意工夫しながら熟々と栽培管理や収穫作業などを行っている。夏場は暑さ対策で7時から作業をしている研修生も多い。



先進地視察研修で、今年は静岡県と神奈川県へエダマメを中心に視察してきた。収穫脱英機や洗浄機、選別機等の活用。また、販売戦略、労務管理など経営面での工夫など、大いに勉強になった。

7月末に飯田橋のラムラマルシェに出店した。とても暑い日であったが、神楽坂祭りも重なったこともあり、約1000点の商品は夕方までに完売。ご来店ありがとうございました。

今年も2年生がミニトマトのソバージュ栽培に挑戦。8月を中心に収穫する作型としたが、露地栽培では収穫できない時期なので、導入メリットはありそうだ。



新規就農予定者のための就農支援会議が開催され、2年生は自分達の就農計画について都の農業関係機関の方から様々な助言や激励をいただいた。

2年生の就農計画についての内部検討会では、指導員や1年生も加えて、皆で活発な議論を交わっている。

残暑が厳しい中、今年の秋ジャガイモは、気温と降雨を眺みながら例年より約1週間遅らせて植え付けを行った。

翌日の降雨に期待し、炎天下であったが、キャベツやブロッコリーの苗を皆で一斉に手植えで定植。定植後は灌水も行った。

キャベツやブロッコリーの夏育苗はハウスの間の屋外で遮熱資材をトンネルし、自動タイマーで薄い液肥を灌水しながら良質な苗を育苗



・緑肥用ヒマワリの前でバタリ！この後、直ぐにすき込みを行った(上)。
・9月中旬まきタマネギは、マルチへの直播とセルトレイ育苗後に定植する区を設けた(写真右2枚)。

9月下旬頃のニンジン、キャベツ畑の様子。ほぼ順調に育つ。

今年も新・農業人フェア(東京国際フォーラム)に出店してきました。開催時間中はほぼ来場者の方が埋まっている状況で大いにPRができました。

今年も初めてイチゴの促成栽培に挑戦。花芽を確認後に定植しています。